



＜第4回＞

閲覧ページ数が60%以上増加

e「利用事例」においても、興味深いデータや効果も見られ始めています。

ます。

■ウェブサイトの滞在時間、閲覧ページ数の向上

不動産業界におけるVRの効果については、まだ歴史も浅く、有効な定量的データはそれほど多く蓄積されてはいません。しかしながら、弊社が提供するVRクラウドソフト「3D Style



VR掲載で内見無しで成約する事例も増えています。

は、外国人向けに不動産情報を提供する、リアルエステートジャパンは、不動産物件のVRコンテンツを同社メディアに掲載することを発表しました。同社が掲載するVRコンテンツは、コンテンツと連動する間取り図、他のシーンに移動できる矢印や画像キャプションなどの機能があります。導入後、同サイト

を訪れた人が閲覧する時間は30%以上増加し、閲覧ページ数も60%以上増加したそうです。遠隔地から部屋探しをする外国人向けに、VRコンテンツの利便性が高いことは定性的には説明できるのですが、データによって裏付けられたと言えます。さらに、同社がVRコンテンツを掲載した物件では、現地の内見を行わずに成約する事例も出ています。

■接客へのVR導入による成約率の向上
5月12日付の楽待不動産新聞に、日本財託のVRを活用した内見代行サービスに関する

が見える興味深いデータになります。

■管理会社としての業務効率化

不動産管理のリオ・ソリューションは、管理物件のVRコンテンツをQRコードにして仲介会社向け画面に掲載しています。VRコンテンツによってコンセントの位置や窓の高さなど、通常の写真だけでは伝えきれなかった情報を伝えることで、仲介会社からの単純な質問を半分程度に削減できたそうです。単純な質問が減ること

で、管理会社としても仲介会社としても本来の業務に集中することができるようでしょう。今回紹介した効果はVR導入の初期段階で見られたものです。重要なことは、各事業者がそれぞれの業務の実態に合わせた使い方をしていることです。このような活用事例、不動産物件のVRコンテンツの数が蓄積していけば、不動産の360度VRによる内見がより一般的になり、さらに違った効果も見られるようになるでしょう。

あることに起因する部分も多いですが、接客にVRを導入した効果



エフマイナー (東京都渋谷区) 中嶋雅宏 取締役

2003年東京大学教養学部卒業。三井住友銀行、BNPパリバ証券を経て、2016年より現職。東京、九州で不動産賃貸業も行う。かんたんVRが制作できるソフト『3D Stylee (スリーディースタイル)』を不動産業界を中心に提供している。

2017年7月24日
全国賃貸住宅新聞 6面